

研究課題名 体育系大学生がより良いコーチになるための学びを促進する教材と方略の開発

研究代表者 石田 正人

日本におけるスポーツ現場および学校現場での体罰が後を絶たない。平成 25 年 2 月、文部科学省文部科学大臣からスポーツ現場における暴力根絶に対し「スポーツ指導者の養成・研修の在り方を改善すること」というメッセージが発せられた。それに伴い、スポーツ指導者資質向上のための有識者会議において、「グッドコーチ像・スポーツ指導者に求められる資質能力の明確化・大学へのコーチ教育プログラムの導入」が検討され、より良いコーチの育成・教育に最適な「モデル・コア・カリキュラム」が策定された。従来から行われている日本体育協会公認コーチ養成共通科目カリキュラムからの大きな変更点として、これまで無かった現場実習の 0%から 27%に、人間力を向上させるための内容が 17%から 34%と大幅に増え、さらにこの「モデル・コア・カリキュラム」は大学教育に導入されることで、指導者になる前の学生、すなわち現役スポーツ選手、アスリート時代から、より最適で効果的なコーチング手法を学ぶ機会を得ることができるようになる。さらに述べるとすれば、暴力によってスポーツや体育指導をする必要がないという本質的な改善に繋がると言える。

そこで本研究では、これまでの授業内容を大きく変更し、より良いコーチングの手法を念頭に置いた「モデル・コア・カリキュラム」を基に検討された授業をアクティブラーニングの手法によって行うことで、指導者を育成する教員が、将来スポーツ指導者や学校教員を目指す体育系大学生にどのような影響を与えることができるのか、さらにカリキュラムを実施する上で必要なこと、困惑することは何なのか、またどのような授業内容がより効果的なものとして活用できるかを、ビデオ撮影による組織的観察法およびインタビューを用い、教員側からの視点から質的に明らかにすることを目的とする。さらに「モデル・コア・カリキュラム」を使用した授業を行うことで、将来のスポーツコーチ・指導者を育てる教員にどのような変化見られるのかを明らかにする。